



31号の主な内容

- ハートフルフェスタ ■地球市民どんたく
- 世界ハビタットデー福岡国際シンポジウム
- 職員紹介 ■新入会員からひとこと
- 今後のスケジュール
- 事務局からのお知らせ

第 **31** 号  
<http://chhf.npgo.jp>

■ハートフルフェスタ福岡2010

2010年10月10日(日) 福岡市役所西側ふれあい広場にて「福岡市人権教育・啓発基本教育計画」の趣旨に基づき、「人権という普遍的文化」を築くことを目的とした人権啓発フェスティバル「ハートフルフェスタ福岡」が開催された。当日は人権・福祉に関する計約67の市民グループや団体がブース出展・フリーマーケットに参加し、当会もブース出展した。



オープニングセレモニーでは、吉田宏福岡市長の挨拶の後、精華女子高校吹奏学部の演奏が行なわれ、歌手のDAIGOによるトークショー、キャラクター集合、ダンス劇他ステージイベントが数多く繰り広げられた。

当会ではブースにてハビタット紹介・当会活動パンフレットの配布とコイン仕分けワークショップを実施した。



親子連れや十数人の子供が前もって用意した外貨コインを興味深く国旗印がついたカードの上に仕分けしていき、よく仕分けできた子どもには、おもちゃと交換できるイベント会場共通券「カエルポイント」を進呈した。また、折り紙を折り、長崎平和公園内の折鶴の塔に寄贈する千羽鶴作成イベントにも参加した。

エンディング・セレモニーのステージでは歌手の米良美一さんと各団体からの代表者が集まり、皆でテーマ曲「スカイ」を合唱し閉幕となった。(山前)





# 世界ハビタットデー2010 福岡国際シンポジウム

2010年11月6日(土)、7日(日)の2日間、福岡市天神のアクロス福岡 2階の交流ギャラリーで、「ふれよう 学ぼう あゆみだそう」のキャッチフレーズのもと「地球市民どんたく 2010」が開催された。

2日間で延べ23の国際交流に関わっている団体がブースを出展し、ワークショップを行った。また来場者は実行委員会が企画したスタンプラリーや民族衣装体験などの催しを楽しんだ2日間だった。



私たち「ハビタット福岡市民の会」も「日本ハビタット協会」との共同出展という形でブースを出展し、「世界のコインワークショップ」を行った。

来場者はスタンプラリーのため、それぞれのブースでスタンプを押してもらった必要があったため、スタンプ目的のためにブースへ寄ってくださる来場者の数は、多かったように感じられた。しかしながら他の団体のように、「物品販売」を行わなかったため、私たちのブースの前で足を止めて掲示物を見てくださる方は少なかったように感じられたが、中には熱心にご覧になり、お話を聞きながら涙を浮かべる方々もいて、その方の優しい想いに心が温まる思いがした。



「国連ハビタット福岡本部」や「ハビタット福岡市民の会」の活動、また「日本ハビタット協会」について多くの方々に知って頂きたいと思い、パネルや写真を準備していたが、それが十分に活かされたかは来年への課題として、今後検討して行きたいと思う。「世界のコインワークショップ」は思っていた以上に好評で、特に年配の男性に人気があった。(橋詰)



2010年は「Better City, Better Life ~住民主体の都市づくり~」をテーマに、国土交通省国土計画局、国連ハビタット福岡本部が主催し、10月1日(金)アクロス福岡の国際会議場において、シンポジウムが開催された。

シンポジウムには、国連ハビタット親善大使のマリ・クリスティーヌ氏をはじめ日本ハビタット協会やハビタット福岡市民の会のメンバーも多数参加した。

冒頭、国土交通省国土計画局総務課長の木原知夫氏が主催者を代表して挨拶され、つづいて、国連ハビタット福岡本部・上級人間居住専門官ラリス・ランカティレケ氏より「住民主体の都市づくり~人々を計画のプロセスの中心に~」と題して事例発表があった。

日本の飛騨高山、ラオスのルアンパバーンなどに残る美しい昔の住宅と現代の住居を比較しながら、現在の都市計画の問題点として、「人々が自分の住環境から隔離されている」ことを挙げ、その解決策として「住環境の決定に住民をその中心におく」ことの大切さをアピールした。



循環生活研究所たいら由子氏

次に、NPO法人循環生活研究所・事務局長のたいら由子氏より、福岡発の段ボールコンポストの普及活動に関する事例発表があった。

段ボールコンポストによる堆肥づくりを通して、家庭内や地域内での会話が増え、学校での環境教育にも有用であり、生活力の向上にもつながると、その効用の説明があった。現在、国連ハビタット福岡本部の協力を得ながら、ネパールなど、海外での普及にも力を注いでいるとのこと。市民を動かして行くために「Know→Think→Do」のサイクルを回し、地域活動を通じての地域づくりの重要性を訴えた。



新入会員の孫煜東(ソウツトウ)さんに

第2部は、国連ハビタット福岡本部長の野田順康氏がコーディネーターを務め、2人の事例発表者とFukuoka Urban Laboratory代表社員の後藤太一氏、国連ハビタットアフガニスタン事務所長の Michael Slingsby 氏がパネリストとなり、パネルディスカッションが行われた。



ランカティレク氏

後藤太一氏

Michael Slingsby 氏

日本では、1980年代に人の動きが激しくなり、コミュニティがなくなっていった、孤独死が多発するようになったので、再度コミュニティを立て直す必要があるとの指摘があった。アフガニスタンの Michael 氏は、スラムの人々が将来に希望を持ってもらうようにするのがハビタットの仕事であり、ここ30年ですいぶん改善されたと報告した。それは、コミュニティ内で選ばれた人に、何が必要か、何が重要かを考えてもらい、そこにハビタットから技術と資金を援助すること、またイスラム女性によるコミュニティ開発委員会を組織し女性が家庭から出ていくチャンスを作り、女性のエンパワーメントを図ったことが大きいと語った。

会場からの質問や意見も活発に出され、たとえば公団住宅の建設に際しては、従来の力のある人の都合のいい住宅ではなく、住民の意見を取り入れた集合住宅のデザインが望まれるとの回答があった。ほかのパネリストからも、ハビタットが提唱する、People's Process という、住民参加型の取り組みが重要であるとの意見が多くだされた。マリ・クリスティーヌ氏は、その成功のカギは、ちゃんとしたリーダーシップを持った人を選出することであるとコメントした。

野田本部長は、最後に、最も重要なのは人と人との絆であり、食事をしていても横の人が声をかけてくるような福岡の風土が望まれる姿だと締めくくった。(牟田)





## ■職員紹介

11月18日(木) 国連ハビタット福岡本部を訪れ、職員の井上敬子さんへインタビューを行いました。

### ☆プロフィールをお聞かせください。

関西出身です。関西の大学・大学院で社会福祉学を学びました。大学院生のときに一年間休学しネパールのカトマンズへ行きました。若いときに初めて住んだ外国であり、神秘的な大自然の中で、インフラなど整っていないにもかかわらず、人は楽しそうに生きているのが大変印象に残りました。そこで人が生きていくのに必要なものとは何か、何が幸せなのかを考えたのがいままでの人生の中での原点となっています。大学院を卒業後、インド・ムンバイの日本総領事館で自治体や NGO に対する草の根無償資金援助にかかわる仕事を行っていました。その後スウェーデンの大学と大学院で1年間社会福祉学を学び、アメリカの大学院で国際関係学を2年間勉強しました。



### ☆なぜ国連ハビタットに就職されましたか？

福岡で国際的な仕事のできる場所を探していました。

### ☆国連ハビタットではどんなお仕事をされていますか？

フィリピン、スリランカ、インドネシア、太平洋諸国の事業サポートを行っています。

### ☆お仕事の中で印象に残っていることは何ですか？

働きはじめた時、ここに勤めている皆さんがとてもいい人ばかりだったのがとても印象的でした。

### ☆将来の抱負をお聞かせください。

今のお仕事を充実させていきたいと思っています。将来はネパールに関わる仕事をしたいと思っています。

### ☆福祉の心がどのように活かされていると思いますか？

福祉の現場で培ったコミュニケーション力を様々な場面で活かそうと思っています。他人の想いを理解することは結局はできないのかもしれないけれど、だからこそ理解しようと努めること。そして、ニーズを把握し、自分の気持ちを的確に伝えること。これらは今のお仕事だけでなく、日々の生活にも大変役に立っていると思います。

### ☆好きなことは何ですか？

寝ること、読書、ミュージカルを観ることです。

### ☆好きな言葉は何ですか？

「千里の道も一歩から」です。何事も取りかからなければ始まらないので、どんなにゴールが遠くても、思いきって一歩を踏み出し、歩み続けたいと思っています。また、人生の全てを「福祉人」として生きて行きたいと思っています。これまで「福祉人」として育てていただいた方々を決して裏切ることのないよう、また少しでも恩返しができるようがんばりたいと思います。

### ☆福岡の印象はいかがですか？

今までいろんな所に住んでいますが福岡が一番いいところだと思います。人が温かいけれどもべたべたすることがなく、距離感がちょうどいいと感じます。またセンスも都会的だなと思うことがよくあります。食べ物がとても美味しく、交通の便も良いと思います。



お仕事の後、インタビューに応じていただき本当にありがとうございました。とても穏やかな優しい印象の方でした。今後ますますのご活躍をお祈りしております。

(諸藤)

### 井上敬子さんより市民の会の皆様へ

先日はわざわざお越しいただきまして誠にありがとうございました。わたしのインタビューなんておもしろくないだろうなあ・・・と思いつつ、優しく話を聞いてくださったことにとっても感謝しております。

これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 新入会員からひとこと

### 中川雅文さん

自分は何故、地球市民どんたく祭に興味を持ち参加したかということ、自分は国際交流という分野でボランティア活動を通じ、経験を積み、そして、何時の日か、その経験を活かし、将来、国内、もしくは、国外で組織を組織化し、仕事を行っていければと考え、思っています。今回、自分が参加した、国連ハビタット市民の会でのブース、世界の通貨をブースを訪れた方に見ていただき、見て、感じて、触れていただき、地球の世界中色々な通貨を体験していただきました。どの様なお客様がブースに来られたかということ、様々なお客様の年齢層がおられた中、今回の地球市民どんたく祭は、高齢層の方が多く見られました。そして、自分もリラックスし、ボランティア活動を行う事が出来、お客様も通貨やレートの話で盛り上がりたり、珍しいそうな素振りをするお客様もおられ、成功だったと思います。今後、もっと、国連ハビタット市民の会の活動を広げ、経験し、楽しみながら、活動を行って行こうと思います。それでは、皆様、SEEYOU

### 早川方樹さん

僕が地球市民どんたくに参加したのは、牟田さんからの紹介があったからです

僕はもともと国際協力・海外支援に興味がありました。将来、個人的にそういう活動をしていきたいと思っています。そこで、ある女性から国連ハビタット福岡を紹介していただきました。そして、牟田さんと連絡を取るようになりました。

こうして、僕は地球市民どんたくに参加しました。実際に行ってみて、国際協力を行っている団体がたくさんあることを知り、驚きました。支援先の地域・国も様々で、いろいろな情報を手に入れることが出来ました。

このどんたくに参加して、ホントに良かったです。僕はこれから、国連ハビタット福岡市民の会を中心に活動をしていきたいと思っています。

## ■今後のスケジュール

2011年は、久しぶりにスタディツアー（ラオスを予定）を企画します。皆さんの参加をお待ちしております。

12月9日（木）19:00～

アクロス福岡 B2F グランチャイナ

国連ハビタット福岡本部職員との交流会

【2011年】

1月20日（木）19:00～ 定例会、総会議事検討

2月10日（木）19:00～ 総会

3月17日（木）19:00～ 定例会、ニュースレター検討

4月21日（木）19:00～ 定例会

ニュースレター32号発行

5月19日（木）19:00～ 定例会

6月16日（木）19:00～ 定例会

7月21日（木）19:00～ 定例会、ニュースレター検討

8月18日（木）19:00～ 定例会

ニュースレター33号発行

9月15日（木）19:00～ 定例会

10月3日 世界ハビタットデー

記念シンポジウムが行われる予定です。

10月 ハートフルフェスタ

ブース出展予定

10月20日（木）19:00～ 定例会

地球市民どんたく準備

11月5日～6日（予定）

地球市民どんたく、ブース出展予定

11月17日（木）19:00～ 定例会

ニュースレター検討

11月23日～27日 スタディツアー（ラオス）

ハビタットが進めているラオスの学校給水・衛生設備建設プロジェクト見学や古都ルアンパバーン観光を予定

12月8日（木）19:00～ 定例会

ニュースレター34号発行

12月15日（木）19:00～

国連ハビタット福岡本部職員との交流会

☆スケジュールは変更になることがあります。

メールやウェブサイトでご確認ください。

☆定例会は、原則として、福岡市立青年センター5F 福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」で行います。



「あすみん」での定例会の様子



## 編集後記

今年は急に気温が下がって、紅葉が綺麗な年となりました。

今号は、みなさんの投稿が

順調で、比較的余裕のある編

集ができました。とくに新入

会員の皆さんが、職員インタ

ビューに参加したり、地球市

民どんたくに協力いただいたり

していただくなど、若い力の今後の活躍に期待できる

内容となりました。来年の久方ぶりのスタディツア

ーが早くも楽しみです。

（牟田）



## ■事務局からのお願いとお知らせ

### ●会費納入ご協力をお願い

いつも、ニュースレターの最後の方で年会費の納入のお願いをしていますが、なかなか納入率が上がりません。今現在、ニュースレターを郵送している方の一割ちょよっとしか年会費を納入されていないのが実状です。

皆さんにお送りしているニュースレターの作成・郵送や市民の会の活動は、皆さんからの会費で成り立っています。また、将来的には、「ハビタット福岡市民の会」をNPO法人化するという夢も持っています。そのためにも、まず財政基盤の整備が必要です。一般が2,000円、学生が1,000円の年会費です。大きな負担となる金額ではないと思います。今回郵送しましたニュースレターに、年会費の振込用紙を同封していますので、どうか年会費の納入をお願い致します。

**年会費 2000円（学生：1000円）**

会費・支援金の納入は、下記口座へお願いします。

郵便振替口座 01730-0-78434

加入者名義 ハビタット福岡市民の会

### ●ボランティアスタッフ募集

ハビタット福岡市民の会の運営や活動のサポートに携わっていただく、ボランティア（運営委員や会員）を募集しております。（定例会などへの飛び入り参加歓迎）

国連ハビタットの活動に興味をお持ちの方、大学生などとくに若い方々の積極的な参加をお待ちしております。

お問い合わせは、下記連絡先へ。

### ●リーフレットができました

ハビタット福岡市民の会のPR

新入会員の勧誘

国連ハビタットの活動紹介

などにご活用ください。

ご希望の場合は、必要部数を

## ハビタット福岡市民の会



### ハビタットって何だろう？

国際連合人居計画（国連ハビタット・UNCHS）は、1978年、世界中の人たちが安心して快適に暮らせる「まちづくり」を推進するために創設されました。本部はケニアのナイロビにあり、福岡とリオデジャネイロに各地域本部があります。

国連ハビタット福岡本部は、アジア・太平洋地域を担当し、住居や上下水道の供給といった居住環境を改善するために必要な技術協力をしたり、都市問題の解決、災害復興に向けたプロジェクトを推進しています。こうした技術協力を通じて、現地の住民中心の活動を促進し、住民の自立をサポートしています。



## 事務局・お問い合わせは

郵便物のあて先は：

〒810-0041 福岡市中央区大名2-6-46

福岡市NPOボランティア交流センターあすみん連絡ボックス2号

お問い合わせは：

TEL 090-6770-2481（代表 牟田）

FAX 0942-41-2080

E-mail muta@ktarn.or.jp

HomePage <http://cnhf.nngo.jp>



下記窓口へご連絡ください。